

水道の未来を考える vol.1

●水道料金の適正化について●

水道事業は原則として市町村が運営するものと定められており、独立採算を前提とした地方公営企業会計で経営されています。しかし、水道事業の料金収入は人口減少等による使用水量の減少により、近年では年々減少傾向を辿っており、北広島町も例外ではありません。そんな中、次世代にも安心・安定したサービスの提供を続けていくために、水道料金の適正化について検討します。

●北広島町水道事業の問題点●

北広島町では昭和 48 年（旧千代田町）から水道事業を開始しており、現在 45 年目を迎えています。平成 29 年度より上水道事業（千代田）と簡易水道事業（芸北、大朝、豊平、本地地区）が統合され、北広島町水道事業としての運営が始まりました。

問題点① 旧上水道事業における水需要と供給

旧千代田地域に限っては、人口はほぼ横ばいから微増で推移しています。使用水量についても 1 人あたりの使用量の増加がみられ、工場等の事業用においても使用水量が増えている状況です。

今後さらに水が必要となった時、現在の施設能力では対応できなくなる可能性があります。また、猛暑における水不足や寒波による漏水等が発生した場合、水の安定供給が難しくなります。



壬生浄水場

問題点② 旧簡易水道事業における人口減少による収入の減少と維持管理費の増加

人口減少が顕著です。旧簡易水道地域では給水範囲が広く施設数が多いため維持費がたくさん必要ですが、現在、水道料金の収入で賄えている費用は 26% 程度で、大きな赤字を抱えている状態です。

問題点③ 施設、水道管の老朽化に対する管路更新及び耐震化

管路施設の法定耐用年数は 40 年となっていますが、40 年を経過した管路は年々増加していく一方です。今年度において 40 年を経過する管路経年化率は約 8% ですが、10 年後は約 25%、20 年後では約 77% にまで跳ね上がります。

併せて、浄水場をはじめとする施設の老朽化対策、耐震化対策も考えていく必要があります。管路の老朽化が進むと管の破損が起りやすくなり、漏水や断水事故が起きる可能性も高くなります。また、近年懸念されている大地震等の災害が起きた場合、長期間の断水を余儀なくされてしまうかもしれません。そういった状況を少しでも防いでいくために、管路更新等を計画的に行っていくことが重要です。



老朽化した
水道管からの漏水

これらの問題点を踏まえた上で、将来に渡る健全な経営の維持や、安定した住民サービス提供のため、水道事業経営について絶えず見直していくことが不可欠です。

お問合せ先

北広島町役場 上下水道課

IP☎ 050 - 5812 - 1861